

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2018年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより8月号

子どもを伸ばす「ほめ方」を考える

夏休みが始まりましたね。お子さまは充実した夏休みを過ごしておられますでしょうか。

お子さまと一緒にいる時間が長くなるこの時期、あらためてお子さまを「ほめる」ことについて考えてみられませんか？ここで、日本アドラー心理学会公認心理療法士、星一郎さんのオススメほめ言葉をご紹介します。

☆人格ではなく、行動をほめる☆

「いい子だね」⇒「いいことをしたね」、「やさしいね」⇒「お友だちにやさしくできたね」

☆結果よりも、努力（プロセス）をほめる☆

「試合に勝って、えらいね」⇒「思い切って向かっていったね」

☆他人と比較せず、その子の成長をほめる☆

「〇ちゃんより△△がうまいじゃない」⇒「去年よりずいぶん上手になったね」

☆YOUメッセージではなく、Iメッセージで話す、自分の気持ちを言う☆

「成績上がったね。やればできるじゃない。」⇒「あなたががんばってるの、お母さんうれしいな。」

いかがでしょう。お子さまにかけられるほめ言葉を工夫して、お子さまの反応を楽しみながら、お母さまの「ほめスキル」を上げていきましょう。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“幼児期は器づくり。「たくさんの歌」をうたって語彙を豊かに”

教育に早すぎることはありません。考える力は幼児期からでも育てられるのです。

いつの時代にも歌われ続けてきた子守歌は、言葉がたくさん詰まった玉手箱です。生まれたばかりの赤ちゃんは眠ってばかりいるように見えますが、わずかな物音、話し声にも全身の神経を傾けています。お母さんの優しい声でたくさんの歌を聞かせてあげれば、知らず知らずのうちに言葉を覚えてしまいます。

歌は子どもの語彙を豊かにし、さらには表現力を高めます。親と子の心のコミュニケーションもはかることができ、知的発達の素地づくりになります。幼児のときから能力を伸ばしている子どもの多くは、たくさんの歌を聞いて育っています。乳児のときから歌で言葉の世界を広げておけば、国語の学習を始めても、短期間で高い進度に到達しやすくなるのです。親といっしょにいられてうれしい、本を読んでもらえて楽しい、大好きな歌を聞いてウキウキする、そんな時期に学ぶ力をしっかりつけてあげることこそ、賢い親の役目なのです

2018年8月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 山の日
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

8月分の会費引き落としは7月30日（月）です。よろしくお願ひいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願ひます。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

様

*ゆき子の一言コラム

高学年・・・網羅的な学習と学び直しで力をつける

5年生、6年生は体力的に大きく変化する時期です。女子の三分の二、男子の半数近くがこの時期に人生の中でもっとも身長伸びる時を迎え、1年間で十センチメートル以上伸びる子がかかり現れます。この時期の子ども扱いのポイントは、もし問題行動を起こしたとしても、その問題点だけを指摘し、その子の人格についてあれやこれやとコメントしないこと、この子の内面の自由を十分に保障することです。高学年は自覚すれば学力回復は早く、学力的には十分ではない子も4年間の学校生活でかなりの力をつけています。学校での先生の指導がまとを得ていれば、従順にそれに従い成果を上げていきます。計算力・漢字・社会・理科の知識・ローマ字などを、授業とは別仕立てで家庭学習として自発的に取り組めば、どんどん学力はついていきます。5年生の学力面の課題は、テスト勉強をとおして、ひとり学習の方法や習慣を身につけさせるということです。5年生の理科や社会の内容は、4年生までの教科書と違って、系統性やまとまりがあってひとり学習をするのに適しています。テストの日を設定して、3日ほどの見通しをもってテストのためのノートづくりなどをします。そして、テスト結果を見ながら、どうすればよい結果が得られるか検討していきます。こうすると、子どもたちは「テストとは努力した成果を自分で確かめるものなのだ」ということを知り、学び直しの大切さを実感し、これをしっかり実行した子は精神的に随分成長していきます。

6年生の課題は、6年間の総復習です。計算で1年生から6年生までの課題で満点がとれるとすごい自信になります。「計算力は学力回復の牽引車」と私たちは言っています。漢字についても再学習のチャンスです。卒業までに1006文字の完全マスターを目指します。6年生になるとほとんどの子が発達の節を通過し、象徴的な思考ができるようになってきます。ので、もう小学生ではない力をもってきています。努力すればすぐに獲得できる課題を提示し、「網羅的な学習」を準備してあげるといことです。網羅的というのは、たとえば6年生の新出漢字を学習させるときに、181字を一挙に示す、都道府県名をおぼえるなら四十七都道府県名を一挙におぼえさせるということです。これは、高学年だから可能な方法です。子どもたちは学習というのはやってもやってもきりのないもの、という印象をもっています。それが学習意欲をそいでいます。だからこれだけやれば完璧、という全体像を明らかにしてやると意欲がわいてくるのです。6年生の新出漢字を4,5月で全部書けるようにする取り組みでは、公文プリント181字すべてが載ったテスト問題をつくっておいて、このプリントをくり返し練習させます。こうするだけで子どもたちの半分は181字を完璧に書けるようになり、ほとんどの子が十字以内のミスですむ域に達します。書き順がわからなければ教科書のうしろを見ればいい、意味がわからなければ辞書を引けばいい、そのような力はすでに十分ついているのです。網羅的な学習で漢字を全部書けるようになったら、今度は熟語を書けるようにしていきます。問題は、高学年のやる気にいかに火をつけるかです。公文では、このような取り組みでやる気に火をつけ、学力の回復をはかる一方、授業は凛々しくすすめ、多くのプリントできたえていきます。

教室で6年生の子どもたちをきたえる課題は二つあります。一つは教室のなかで学び直しをさせることです。6年生の課題に取り組みながら6年間の総復習を授業として展開していくのです。たとえば、算数の「単位あたりの量」のところでは、単位の入った立式を指導し、かけ算の意味やわり算の意味を教え直します。いままでなんとなくわかってきたこと、あまりよくわかっていなかったけどできていたことを、学び直しによってより深くわからせていくのです。もう一つの課題は、「学力の社会性」に気づかせることです。自分の発言が友だちの考えのヒントになり、友だちの意見が自分の脳を刺激してつぎのひらめきに役立っている。このようなことも子どもたちに実感させることが大切です。家庭内でも学校でも、自分の意見を用意せずに人の意見だけを聞こうとすることは自分の成長にならないこと、自分の考えとは違う、間違った意見こそが授業を深め、自分に深い学びを保障し合うことを社会生活の中でしっかり教えなければなりません。高学年の子どもたちはほんとにすごい力を持っていますが、そのことに子どもはたち自身は無自覚です。みんなで考え、深めていくことのよさを教育環境の中で実感させ、子どもたちのパワーに火をつけさせることこそ、我々大人、親、指導者の任務です。学習できたえるためには、子どもたちの心が解放されていることが大切です。「まちがってもかまわない」といくら口で言っても、それを事実として示さなければ、効き目はありません。間違った意見が活用され、わからなかった子がわかるように、わかっている子がより深くわかるようになる学習を実践しない限り、説得力はありません。こんな学習が一日1時間でもあれば、子どもたちは生き生きと高学年らしい力を発揮し、キラキラ輝きだします。

***教室での決まりごと。①はきものはきちんとそろえよう！ ②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！
③もちものには なまえ をかきましょう！④でんわをかりたら かならず でんわ代10えん いれてください！**